

【青果部】

1. 取扱高 期間： 令和2年1月から12月まで(開市日数 254日)
 数量： 106,695 t (前年比 98.1%)
 金額： 22,836,757 千円 (前年比 113.9%)

2. 月別取扱高

上段:数量(t)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年取扱高
野菜	4,838	6,013	7,133	6,051	5,773	7,877	9,948	7,528	8,249	11,388	10,200	7,540	92,538	93,496
	108.8%	106.7%	100.8%	94.7%	97.2%	97.5%	106.4%	86.2%	89.8%	102.8%	108.4%	92.3%	99.0%	
	981,497	1,122,559	1,371,291	1,414,261	1,278,670	1,430,295	2,264,920	1,725,900	1,507,681	2,018,935	1,745,991	1,600,638	18,462,638	15,758,656
	86.6%	86.8%	102.8%	104.5%	112.9%	112.8%	156.0%	129.8%	113.5%	151.4%	136.2%	105.5%	117.2%	
果実	989	1,224	1,008	963	671	695	1,114	1,457	1,008	1,301	1,671	1,597	13,699	14,845
	94.3%	90.1%	86.8%	95.5%	79.2%	78.5%	85.4%	109.6%	92.7%	97.9%	104.7%	84.6%	92.3%	
	272,982	329,816	331,654	350,579	282,472	288,398	418,176	471,006	309,597	307,936	382,934	421,793	4,167,344	4,065,425
	102.6%	99.4%	98.0%	113.7%	93.5%	92.6%	107.1%	124.8%	110.7%	108.7%	100.1%	85.4%	102.5%	
その他 (野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	38	41	43	36	46	32	29	28	26	33	45	61	458	476
	86.2%	104.0%	115.0%	76.8%	85.2%	93.9%	98.4%	95.4%	103.3%	118.5%	104.9%	93.3%	96.2%	
	19,265	24,038	22,110	11,563	16,020	11,325	12,065	11,875	11,624	15,554	18,127	33,209	206,776	230,574
	88.9%	110.2%	92.3%	70.6%	85.1%	84.3%	89.1%	89.1%	91.0%	105.1%	94.9%	81.1%	89.7%	
合計	5,865	7,278	8,184	7,051	6,491	8,604	11,091	9,013	9,283	12,722	11,917	9,198	106,695	108,817
	105.9%	103.5%	98.9%	94.7%	94.9%	95.6%	103.8%	89.3%	90.1%	102.3%	107.8%	90.9%	98.1%	
	1,273,743	1,476,413	1,725,056	1,776,403	1,577,161	1,730,018	2,695,161	2,208,781	1,828,902	2,342,425	2,147,053	2,055,641	22,836,757	20,054,654
	89.6%	89.6%	101.7%	105.9%	108.5%	108.6%	145.2%	128.4%	112.9%	143.5%	127.6%	100.2%	113.9%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕 1、2月は全国的に暖かな日が続いたことから、大根・人参・キャベツ等の大型野菜は生育が前進傾向で太物・大玉となり、主要品目はおおむね潤沢な出荷となった。3月も全国的に温暖な気温となったものの、新型コロナウイルスの影響から外食需要は落ち込み、月初めから学校の一斉休校のため給食もストップし、食材の納入業者には深刻な痛手となった。一方で外出自粛が呼びかけられると、自宅消費が増加し、小売り量販店の動きは活発となった。4月になると雨や曇りの日が多くなり、全国的にも低温となり不安定な気候となった。4月に出了された新型コロナウイルスによる緊急事態宣言は5月下旬には解除され、6月の業務需要はやや改善がみられたものの、大幅な回復には至らなかった。7月は長雨と日照不足となったが、8月には一転して好天、高温が続き、厳しい暑さによる高温の影響で品質が低下した品目もあった。残暑は9月も続いたが、10月には比較的穏やかな気候となった。

1月は、県産の長いもの安値基調が続き、数量増の単価安となった。3月は、大根が前進出荷により数量、金額共に前年を上回った。5月は、白菜が産地の全身出荷に加えて、コロナ対策でキムチの需要が伸びたため、数量減の単価高となった。7月は、人参が関東産の切りあがり早く、また北海道産にも遅れが見られたため、県内産の引き合いが強まり、単価は昨年の3倍となった。8月は、トマトが生育不良により入荷量が少なく、例年より高値で推移した。10月は、にんにくが免疫効果の需要の高まりから前年比の3倍の単価高となった。

〔果実〕 りんごは、年明けから2月頃までは昨年よりも単価が3割ほど高く、小玉・中玉の値頃感あるものの引き合いが強かった。3月に県産ふじが普通冷蔵品からCA貯蔵に切り替わり、相場はやや持ち上げ傾向となった。6月には在庫残量に限りが見え始め、相場は高止まりした状態が続いた。県産ふじの残量は7月には取引が終了し、9月10月は早生種のつがるが中・小玉中心に取引された。

1、2月は、みかんの荷動きが悪く数量、金額共に前年を下回った。3月は、甘夏みかんが他の柑橘類が少ない中、数量多く安定した入荷となった。5月は新型コロナウイルスの影響から各種イベントの中止により荷動きが悪かった。8月はお盆需要と暑さの影響から、メロンとすいかの引き合い強く単価高で推移した。10月はシャインマスカットが平年より早い出荷となり、数量、金額共に前年を上回った。

【花き部】

1. 取扱高	期 間：	令和2年1月から12月まで(開市日数242日)		
	数 量：	12,193 千本	(前年比	90.8%)
	金 額：	1,038,860 千円	(前年比	89.1%)

2. 月別取扱高

上段:数量(千本・千鉢・千個)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	前年取扱高
切 花	670	758	1,510	742	768	805	868	1,354	1,056	691	710	1,174	11,106	12,237
	100.7%	92.5%	91.1%	77.3%	76.7%	99.4%	87.7%	95.2%	92.6%	87.3%	98.5%	93.2%	90.8%	
	63,356	62,562	113,740	45,184	52,937	58,570	70,087	115,820	95,279	64,255	62,991	101,412	906,194	1,017,342
鉢 物	8	10	12	14	14	9	6	2	7	13	9	10	115	137
	91.2%	98.6%	97.9%	75.2%	60.4%	98.4%	83.2%	33.8%	77.3%	98.5%	96.8%	119.4%	84.3%	
	2,740	3,492	4,649	5,917	6,018	3,806	3,913	1,583	3,832	5,958	5,620	6,028	53,557	59,774
その他 (枝物、観葉植物、 苗物、植木、加工 品、その他)	31	121	63	112	155	114	51	26	49	58	45	147	972	1,049
	139.3%	140.6%	89.6%	83.5%	80.0%	88.7%	65.8%	67.7%	88.2%	81.0%	82.5%	125.8%	92.6%	
	2,506	5,535	3,901	9,599	12,019	9,513	5,067	2,072	4,179	6,832	4,293	13,595	79,108	88,576
合 計	708	889	1,585	868	936	928	925	1,383	1,113	762	765	1,331	12,193	13,422
	101.9%	97.1%	91.1%	78.0%	77.0%	97.9%	86.1%	94.3%	92.3%	87.0%	97.4%	96.1%	90.8%	
	68,602	71,589	122,289	60,700	70,974	71,889	79,067	119,475	103,291	77,045	72,904	121,035	1,038,860	1,165,692
	105.0%	93.1%	82.5%	63.3%	68.9%	101.8%	96.3%	93.9%	97.4%	95.4%	96.0%	90.7%	89.1%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切 花〕 年が明け年末需要が終わると、産地からの出荷や販売店の小売りも鈍くなっていった。暖冬の影響により、例年ならば冬季流通が減る低温に弱い品種も安定して流通がある一方、その影響によりチューリップやスイートピー等の冬の花の動きが鈍くなっている。産地からは春彼岸に向けて順調と報告が上がってきているが、コロナウイルスによる中止・延期・自粛となったため、扱い数減少の影響があった。3月の歓送迎会シーズンも自粛が続き、彼岸需要にきても保合で、不安定な取引が続いた。沖縄から小菊が潤沢に入荷されたが、コロナウイルスの影響により需要が少なく単価安となった。4月にはコロナウイルスによる緊急事態が出され、多くの品目で動きが止まり、価格が暴落した。菊は、葬儀の中止・延期が増え需要減の単価安で推移した。5月の母の日により流通本数は徐々に回復したものの、前年比では数量、金額共に大きく下回った。お盆期間中は例年と同様の引き合いがあったが、コロナウイルスの影響により輸入品流通が大きく減少し、代品も少なく数量減となった。8月以降の高温の影響により育成状況が進んだ結果、単価のばらつきが大きかった。9、10月には全国的に菊類・洋花の作付けが少なく、また高温による前進出荷の影響から数量減となった。また長雨と日照不足の影響で流通量が減少し、さらにコロナウイルスの影響により業務需要も低迷したため、数量、金額共に前年を下回った。

〔鉢 物〕 年始めは、暖冬の影響により苗物(ポリアンジュリアン等)の生育が進み入荷は多かったが、引き合いは弱く、安値傾向であった。贈答用の蘭類は入荷・価格共に安定していた。2月後半から新型コロナウイルスの影響によるイベントや行事の中止・延期があり、安値傾向が進んだ。3、4月の卒業式・入学式シーズンでやや取り引きは増えたが、依然として流通量が少なく、動きも鈍かった。八戸市緑化祭が中止となった影響でせり参加者も少なかった。コロナウイルスによる緊急事態宣言が出され、外出自粛の影響でガーデニング用の鉢・苗の引き合いが強くなり、小さめの庭木や芝生を中心に動きが出てきた。例年は5月だが、コロナウイルスの影響により6月にずれた花壇苗物植込み需要により苗物の動きがよかった。7、8月は蘭物中心の販売となったが、花物・苗物は動きが少なかった。9、10月は胡蝶蘭等が順調に入荷し、閉店祝い等で荷動きもよかった一方、葉ボタン・シクラメンが猛暑の影響で遅れ気味となり、また工事用の芝生、住宅用植栽等の荷動きも止まり、売上げが低迷した。